

GPS 安全性要約書

カルコール 2098

この製品安全性要約書は、一般社会へ化学物質の用途・用法、安全性情報の概要を提供するものです。この文章は、サプライヤーから提供される、用途毎に推奨される詳細な安全措置について記載されている安全データシート (Safety Data Sheet) に代わる文書として作成されたものではありません。また、製造者から提供される、この物質を含む消費者製品の使用説明書や警告に代わるものとして作成されたものでもありません。記載内容は、現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいておりますが、いかなる保証をなすものでもありません。

1. 物質の特定名

商品名: カルコール 2098

化学名: Lauryl alcohol

CAS 番号: 112-53-8

2. 使用・用途と適用

カルコール 2098 は長鎖脂肪族アルコールです。乳化安定作用を有することから化粧品や医薬部外品に使用されています。

カルコール 2098 は産業分野では主に化学合成のための中間物質、金属加工油添加剤として用いられています。

3. 物理化学的特性

カルコール 2098 は物理化学的な危険物質ではありません。

特性	値・性状
物理状態	固体（夏期液体）
色	白色
臭い	わずかな（若干）特異臭
pH	測定不可
密度	0.8263 g/mL (30°C)
融点	23.5-26.5°C
沸点	264°C

引火点	136°C (クリーブランド開放式測定器)
可燃性	情報なし
燃焼または爆発限界の上限／下限	爆発限界—上限： 2.6%(V) 爆発限界—下限： 0.3%(V)
自然発火温度	>100°C
蒸気圧	情報なし
水への溶解性	不溶
オクタノール／水分配係数(Log K _{ow})	情報なし
粘度 (粘性率)	10 mPa・s (37°C)

4. ヒト健康影響

消費者: 危険な濃度レベルでの暴露はありません。

作業者: 短期および繰り返し暴露による毒性は示さないと考えられます。

アセスメント項目	結果
急性毒性 経口/経皮	實際上、曝露後の毒性はありません。単回曝露後に、特定の臓器に対して毒性を示すこともありません。
刺激性 皮膚/眼	未希釈物は眼に対する強い刺激性を示します。
感作性	感作性はありません。
繰り返し曝露による毒性 経口/吸入/経皮	實際上、経口/吸入/経皮曝露後の毒性はありません。繰り返し曝露後に、特定の臓器に対して毒性を示すこともありません。
遺伝毒性	変異原性はありません。
発がん性	反復曝露の試験結果から、発がん性はないと考えられます。
生殖発生毒性	入手可能なデータから、生殖発生毒性はないと考えられます。

5. 環境影響

魚類、水生無脊椎動物、藻類に対する試験結果から、カルコール 2098は水生生物に対する影響が示唆されます。しかし、容易に生分解されるため環境中には残留しないと考えられます。また、食物連鎖における濃縮はありません。

アセスメント項目	結果
水生毒性	環境中での高濃度曝露が生じた場合、水生生物に対する強い毒性があります。また、水生生物に長期継続的な影響があります。
生分解性	容易に生分解されます。
生物濃縮性	生物濃縮性はありません。
PBT / vPvB	PBT/vPvBには該当しません。

6. 曝露

消費者

消費者は化粧品等の使用によりカルコール 2098に接触する可能性があります。これらの用途におけるカルコール 2098の濃度は懸念されるレベル以下です。推奨される用途で使用される場合、消費者に対するリスクはありません。しかしながら常に使用前に製品情報を参照し、ラベルや能書に記載されている使用上の注意に従ってください。

作業員

カルコール 2098の生産設備や多くの取り扱い設備では、この物質による曝露が発生します。また、この物質を取り扱うメンテナンス、サンプリング、テストや他の作業においても曝露される場合があります。教育を受け訓練された作業員のみが、（希釈されていない）この物質を取扱います。各製造設備では、不必要な曝露を避けるためにゴーグルや手袋などの安全防具の常備と共に、作業員向けの訓練プログラムや適切な作業手順を定めています。安全シャワーや眼を洗う設備が設置されています。作業員は**Safety Data Sheet**に記載されている応急措置に従う訓練を受けることが求められます。

環境

この物質は広範囲にわたり使用されているため、消費者用製品の使用に伴う排出と同様、製造、準備・取扱い・貯蔵、配合など工業的に取り扱う場所からも排水処理施設へ排出されます。しかしながら、この物質は容易に生分解されるため、排水処理施設において効率的に取り除かれます。排水中にわずかに残った場合でも、表層水中で生分解を受け、迅速に取り除かれます。従って、長期に渡る水生生物への曝露は起こり得ないと考えられます。さらにこの物質は食物連鎖において濃縮されないため、環境経由のヒトへの曝露は懸念されません。

7. 推奨リスク管理措置

化学物質を使用する際には、適切な換気がなされていることを確認してください。手や皮膚の保護のために耐化学薬品手袋を常に着用し、ケミカルゴーグルのような目の保護具を装着してください。化学物質の取扱い、処理、保管をする場所では、飲食・喫煙をしないでください。化学物質に接触した後は、手や皮膚を洗ってください。目に入った場合は、最低15 分間水道水で目をよく洗い、医師の治療を受けてください。

この物質を含む全ての排出物は、河川等への最終的な排水からこの物質を除去するために、排水処理設備を通さなければなりません。大気中への放出は予想されないため特別な措置は必要ないと考えます。

8. 法規制情報/分類・ラベル情報

GHS に基づき、この物質はその物理特性、ヒト健康、環境への危険有害性に従って分類されています。この危険有害性の情報は特定のラベルと **Safety Data Sheet** によって伝達されています。GHS では化学物質の曝露が想定される対象者（作業員、消費者、輸送業者、緊急時の対応者）が、扱う化学物質の危険性をより理解できるように努めています。

分類・ラベル情報

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：区分2
水生環境有害性（急性）：区分1
水生環境有害性（慢性）：区分2

H319：強い眼刺激
H400：水生生物に非常に強い毒性
H411：長期継続的影響によって水生生物に毒性



注意喚起語：警告

製造、販売、輸送、使用、廃棄に関わる法令は、国や地域によって異なります。詳細についてはサプライヤーから提供される**Safety Data Sheet**を参照して下さい。

9. 結論

環境中での高濃度暴露が生じた場合、カルコール 2098は水生生物に対する非常に強い毒性および長期継続的影響による毒性を示すと考えられます。しかし、容易に分解されるため、環境へのリスクは無視できると考えられます。PBT/vPvB の評価結果から、この物質は PBT/vPvB には該当していません。未希釈のこの物質への接触は強い眼刺激の原因となります。この物質そのものを取り扱う作業者は、標準的な安全管理手法に従い、**Safety Data Sheet** を参照する必要があります。消費者はこの物質そのものには接触せず、希釈された状態で使用されることから、ヒト健康に有害な影響を及ぼす懸念は無いと考えられます。

10. 連絡先

この物質・安全性要約書に関する、詳しい情報については以下にお尋ね下さい：

会社名、部署	花王株式会社、ケミカル事業部門
電話番号	03-5630-7601
ファックス番号	03-5630-7964
電子メール	chemical@kao.co.jp

追加・関連情報に関しては、一般社団法人日本化学工業協会が提供する「化学物質リスク評価支援ポータルサイト」をご覧ください。

(<https://www.jcia-bigdr.jp/jcia-bigdr/top>)

11. 用語集

急性毒性	単回曝露による有害な影響
感作性	アレルギー誘発性
遺伝毒性	遺伝子・染色体に変異をもたらす影響
発がん性	がんを引き起こす作用影響
生殖発生毒性	催奇形性、胚毒性及び、繁殖性への有害な影響
生分解性	環境における物質の生物学的分解性
PBT (Persistent, Bioaccumulative and Toxic)	残留性・蓄積性・毒性を有する物質
vPvB (Very Persistent and Very Bioaccumulative)	高残留性・高蓄積性を有する物質

12. 発行日

2024 年 7 月 11 日 改訂